

令和6年度国有林野事業業務研究発表会 発表課題一覧

《森林保全部門》

第一会場：農林水産省 本館7階 第3特別会議室

No.	発表時間	発表課題名	発 表 者			概 要
			森林管理局	森林管理署等(元所属)	氏 名	
1	10:30 ～ 10:50	ニホンジカの鳴声はニホンジカを呼び寄せるのか？ ～咆哮データを用いた低密度分布域における検証～	東北	秋田森林管理署湯沢支署 (藤里森林生態系保全センター)	盛 一樹	ニホンジカの低密度分布域における効率的な捕獲に繋げるために、発情期にオスジカが発する咆哮データをスピーカーで再生する誘引実験を行ったところ、オスジカが反応を示し、呼び寄せられた可能性が示唆された。
2	10:50 ～ 11:10	有害鳥獣の生態観察と捕獲手法の検討	九州	森林技術・支援センター	川畑 地歩	シカ・イノシシ等の有害鳥獣について、これまでの捕獲状況を踏まえ、さらなる捕獲の効率化に向け、カメラの撮影動画を用いて、生態を観察しつつ捕獲方法(くくり罠)の改良に取り組んだのでその結果を報告する。
					岩下 正斉	
					山本 佑主	
【休憩 10分】 11:10 ～ 11:20						
3	11:20 ～ 11:40	真砂土地域に適したシカ被害防止対策の試み	中部	東濃森林管理署	井出 萌	真砂土地域における苗木のシカ被害対策について、防護柵によるブロックディフェンスや単木保護資材を用いた防護を行った場合に想定されるメリット・デメリットを検証・比較し、適した防護方法の考察を行った。
4	11:40 ～ 12:00	単木保護施工箇所におけるニホンジカ侵入の抑制について	四国	高知中部森林管理署	森下 嘉晴	ニホンジカの生息密度が高く、食害対策が必須となっている地域において、野生動物の食害から下層植生を一定程度保護できる簡易かつ低コストな防護柵を数基考案し、単木保護と組み合わせで設置することを検討した。
					立石 将彬	
【昼休み 70分】 12:00 ～ 13:10 ※審査委員会(食事後30分間程度):国有林野部第一会議室						
5	13:10 ～ 13:30	積雪地における森林防護柵の効果的な設置方法についての考察	近畿中国	滋賀森林管理署 (鳥取森林管理署)	津山 稔	積雪の多い鳥取県の山間部では、森林防護柵が雪により破損し、修繕に多大な費用と労力がかかっている。このことから、雪害を受けにくい効果的な森林防護柵の設置方法を考察したので発表する。
6	13:30 ～ 13:50	小滝川源流域の大規模崩壊地における復旧治山事業について	関東	上越森林管理署	合津 菜々実	令和元年に発生した大規模な山腹崩壊で、広範囲にわたり白濁水の流出が確認され、下流の水力発電所や漁業、観光などに大きな影響を与えたため、崩壊地の復旧対策の治山事業を実施した効果と今後の必要な対策を検証した。
【休憩 10分】 13:50 ～ 14:00						

《森林ふれあい・地域連携部門》

第一会場：農林水産省 本館7階 第3特別会議室

No	発表時間	発表課題名	発 表 者			概 要
			森林管理局	森林管理署等(元所属)	氏 名	
1	14:00 ～ 14:20	安全な森林環境教育を目指して ～ボランティアと連携した取り組み事例から～	関東	高尾森林ふれあい推進センター	山田 徹	林内での体験学習で児童生徒に対し、単に「危ない」と言うだけではなく、林内で起こり得る「注意点をイメージ」させ、児童生徒の成長の特性を踏まえた安全対策の進め方についてボランティアと連携した取組結果を報告する。
2	14:20 ～ 14:40	育てて、守って、森林づくり ～カードゲームが拓く森林環境教育～	東北	米代東部森林管理署 (三陸中部森林管理署)	鍵谷 桜	森林環境教育の教材として「ZORING」を開発！若手職員6名でルールからイラストまでを製作し、管内の小中学校での講義ほか地域イベントでも活用し、森林や林業へ興味をもつきっかけとなった。
				盛岡森林管理署 (三陸中部森林管理署)	谷澤 風音	
3	14:40 ～ 15:00	見て、体験して、学ぶ。空知署の森林環境教育 ～人材育成も交えて～	北海道	森林整備部 技術普及課 (空知森林管理署)	木村 雅代	空知署は11市町を管轄しており、森林環境教育の要望も教育機関に留まらず就労継続支援施設など年齢・目的が多様となっている。今回は地域特性を生かしながら職員の視点も交えて工夫した活動について報告する。
				空知森林管理署	山下 勇氣	
					土屋 美月	
【休憩 35分】 15:00 ～ 15:35						

《特別発表》

第一会場：農林水産省 本館7階 第3特別会議室

No	発表時間	発表課題名	発 表 者			概 要
			森林管理局	森林管理署等(元所属)	氏 名	
特別発表の説明(5分) 15:35～15:40						
1	15:40 ～ 16:00	googleストリートビューを活用した国有林利用の推進	中部	技術普及課	南坂 博和	レクリエーションの森を、地域の観光資源として活用し観光需要の拡大を図ることに加え、現地に足を運ぶことが困難な方に、国有林の自然を体験してもらえるようGoogleストリートビュー活用した取組を進めている。
2	16:00 ～ 16:20	下刈作業の常識を変える「新しい林業」への取組 ～C区分判定による下刈省略～	近畿中国	森林整備課	池上 豊	当局では、H27年度から造林事業の低コスト化を目指して、C区分判定による下刈省略に取組んできており、R4年度から新しい林業の展開を受けてさらに取組を強化したところ、R5現在、下刈平均回数は2.2回、省略率は72%となっている。本発表では、その取組の内容を紹介する。

《森林技術部門》

第二会場：農林水産省 北別館8階 林野庁AB会議室

No.	発表時間	発表課題名	発表者			概要
			森林管理局	森林管理署等(元所属)	氏名	
1	10:50 ～ 11:10	表層崩壊発生抑止を目的とした簡易な木製杭工法の開発	近畿中国	三重森林管理署 (京都大阪森林管理事務所) 越井木材工業株式会社 株式会社コシブレーザーピング	川勝 祥永 清水 賢 壁野 宏司	近年頻発する豪雨への対策として、山腹崩壊を抑止する安全で省力化が図られ木材利用の推進につながる工法が求められており、木杭と羽根木を用いた表層崩壊を抑止する木製杭工法を考案したので、その効果の検証結果とともに報告する。
【休憩 10分】 11:10 ～ 11:20						
2	11:20 ～ 11:40	豪雨災害により発生した流木の有効活用について	東北	岩手北部森林管理署 (青森森林管理署)	長山 晋也	豪雨災害により発生した流木は従来産業廃棄物として処理しており、多額の処理費用が課題であった。そこで、バイオマス燃料として流木の有効活用に取り組み、納入条件を調整することで処理費の低減を図った。
3	11:40 ～ 12:00	受け流す樫で減災 ～逆転の発想で早期に復旧～	中部	愛知森林管理事務所	鈴木 永江 小川 義信	獣害防護柵を維持・保全するため、柵の途中でわざと壊れやすい箇所をすることによって、早期の復旧が可能となった。従来の資材を使うことでコスト増にはならない。平成29年度ごろからの当所独自の取り組みを発表する。
【昼休み 70分】 12:00 ～ 13:10 ※審査委員会(食事後30分間程度):管理課旧審議官室						
4	13:10 ～ 13:30	よく見たら似ているよ、林分のドット模様を使って林相を判別しよう	北海道	上川南部森林管理署	岡田 直人 田辺 結葉	林齢、林相等が類似した同一樹種の林分は、1箇所の調査数値を類似した林分へ適用できることとされているが、衛星写真等の身近にあるツールを活用し得られたデータにより、類似林分として適用できるか検証した。
5	13:30 ～ 13:50	低コスト省力造林の取組について ～オルソ画像を活用した下刈省略区域の判定～	近畿中国	三重森林管理署	那須 満まる 篠原 庄次	当局で実施しているC区分判定による下刈実施の要否判断について、その省力化を目的に、ドローンで撮影したオルソ画像により植生の繁茂状態や植栽木との競合状態を効率的に把握する手法について検討したので報告する。
6	13:50 ～ 14:10	オルソ画像を利用した官行造林の収穫調査の簡素化について	九州	大分森林管理署	武原 龍行 田村 舞 中村 帝	当署の官行造林地は契約面積が10haを越えるものが多く、主伐期を迎える中、収穫調査に多くの時間と労力が必要となっている。迅速かつ計画的に契約を履行するためオルソ画像を活用した収穫調査の簡素化に取り組んだ。
【休憩 10分】 14:10 ～ 14:20						
7	14:20 ～ 14:40	電子機器を活用した収穫業務の効率化について	四国	輸出・国際局国際経済課 (四万十森林管理署) 四万十森林管理署	西坂 志帆 神原 謙太	民間2社のそれぞれの製品(原木検収システム、電子輪尺対応立木調査データ収集アプリ)を活用した収穫業務(収穫調査、データ入力、復命書作成等)を実施し、現行の収穫業務との比較・検証を実施した。
8	14:40 ～ 15:00	エリートツリーや大苗の植栽による下刈の省力化・低コスト化の可能性について	四国	愛媛森林管理署	本山 翔也 中村 正史	高標高域に位置し、スズタケが繁茂する地域において、エリートツリー、大苗、普通苗をそれぞれ植栽した実行結果から下刈の省力化・低コスト化の可能性を検討した。
9	15:00 ～ 15:20	冬下刈りによる下刈り作業省力の可能性	関東	森林技術・支援センター	平尾 翔太	夏季の下刈作業は、炎天下での身体的負担、熱中症や蜂刺されなどの危険を伴うこと、また、造林事業従事者の不足などの状況から、下刈作業省力化の可能性の検討のため、下刈時期を冬季に転換した際の植栽木や競合植生の成長調査の結果を発表する。